

やさしい病害虫講座 40

ダイコン

油断すると被害甚大

木村 裕

家庭菜園のダイコンでは、8～9月に種をまいて11～12月に収穫するタイプが多いかと思えますので、その時期に発生する病害虫を紹介します。

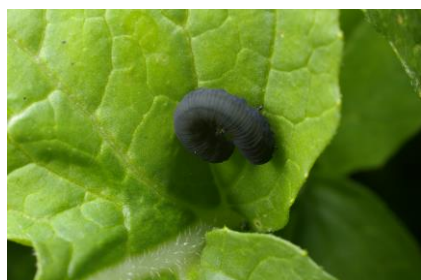
【ダイコンシンクイムシ】

苗を間引くころに発生する厄介な害虫です。成虫は灰褐色の小さな蛾で無害ですが、その幼虫がダイコンの生長点の芯の部分に食い込んだり、葉を糸でつづって内側からかじります。とにかく芯の部分が大好きなもので、株全体が枯れてしまって被害甚大です。間引き作業の折に被害部分を開いて虫を捕殺すればよいのですが大変な作業です（病害虫講座-30 参照）。



【カブラハバチ】

苗を間引くころに長さ1～2cmの黒色のイモムシ（姿はアオムシ似ています）が葉をかじることがあります。手で捕えようとするとう丸くなって地面に落下して姿をくらまします。成虫は腰の部分にくびれがないハチで針も持っていません。また成虫のハチは巣をまったく作らず、ダイコンの葉の中に卵を産みっぱなしであとは何も世話をしません。間引き作業時に捕まえてください。大きくなったダイコン



では実害はありませんので無視。

【キスジノミハムシ】

ダイコンを収穫したとき、白い根部に浅い凹みや小さな穴がたくさんあいていることがあります。見た目が悪くて隣人にわかるのにも気がひけます。これは生育途中の段階で根の表面を虫にかじられたせいです。小さな白いウジが犯人ですが、似顔絵を片手に探してもまず見つからないでしょう。

成虫は小さな黒い甲虫（長さ2mm前後）で、背中に2本の黄色の縦帯の模様があります。後ろ足の太ももが大きく膨れていて、ピョンピョンと飛び跳ねます。ダイコンの葉をかじって小さな穴をあけるので、発芽直後の苗では被害が



大きいですが、おおきく育ったダイコンでは問題はありません。この虫の幼虫に根の表面をかじられて傷つくと、ダイコンの肥大とともに傷跡も大きくなって残ります。



【葉をかじる虫】

アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウなどが葉をかじって孔をあけます。発生に気付いたら早期に防除します（捕殺、薬剤散布）。

【根部の病害】

外見上きれいで美味しそうに見えるにも関わらず輪切りにすると中心部が黒く変色していて捨てざるをえないことがあります。外観でだまされ気分は最悪ですね。黒腐病、黒点病、萎黄病が原因ですが病原菌は地中にいるのでお手上げです。栽培する畑を変えましょう。